

2025年度 教育計画

教科	理科	単位数	前期 I	後期 I
科目	生物基礎	スクーリング(時間)	前期 4	後期 4
科目的目標	①レポートを通して学習内容を理解し、教科書を丁寧に読む態度を身につける。 ②スクーリングで各単元の重要事項の解説を通して基礎的・基本的事項の定着を図る。 ③身近な科学的事象・科学の話題などを見聞きすることで、科学に対する興味・関心を高める。			
教科書	高等学校 新編生物基礎（東書702）	学習書	なし	
副教材	学習指導書	その他教材	なし	

学期	月	項目	内 容	スクーリング				テスト	レポート	
				本校	都城	小林	日南		回数	日
前期	4	生物の特徴	生物の持つ共通性について考察し、それらの生物のDNAを持つという共通性があることに理解する。細胞、組織、器官の関係性を理解する。	20 28	27		27			
	5	遺伝子とそのはたらき	親の形質が子に引き継がれることを遺伝といい、遺伝は遺伝情報であるDNAによって担われていることを理解する。生命の維持に必要な1組のDNAをゲノムといい、真核生物の細胞には両親に由来する2組のゲノムが含まれることを理解する。	12 25 25	11	11		第1回	21	
	6	遺伝子とそのはたらき ヒトの体の調節	遺伝情報は、ATGCの4つの文字のみで表現されていることから、4文字の組み合わせによって膨大な情報を表現できることを理解する。 ヒトの体内環境を一定に保とうとする調節のしくみを理解する。	1 9 15 23 29	8 22 22		8	第2回	18	
	7			13 21	6 20	6	20	第3回	23	
	8	前期テスト	前期レポートは下記の範囲を中心に出題します。 前期レポート第1回～3回、テスト対策プリント（第3回 レポート）に同封）					24		
	9	前期テスト 神経系による情報伝達	無意識に体内環境が調節されていることに気づき、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを理解する。	28				7		
後期	10	免疫のはたらき	ヒトは免疫のしくみによって、病原体などの異物から体を防御していることを理解する。 天然痘ワクチン発明の経緯や、エピデミックやパンデミックの歴史を知る。	12 20	19 19		5	第1回	22	
	11	生物の多様性と生態系	環境要因と環境形成作用の関係について理解する。 世界のさまざまな地域の気候と植生の関係を調べ、バイオームが遷移を経て成立していることを見いで理解する。 日本のバイオームについて、遷移と関連づけて理解する。	9 17	2 30 16	2 16	16 30	第2回	19	
	12			1 7 15 21		14				
	1	後期テスト	後期レポートは以下の範囲から主に出題します。 第1回 1 3 5 第2回 1 3 4 第3回 1 2 3 数値や考えの順番は変わることがあります		4		4	25	第3回	7
	2							1		
	3							8		